



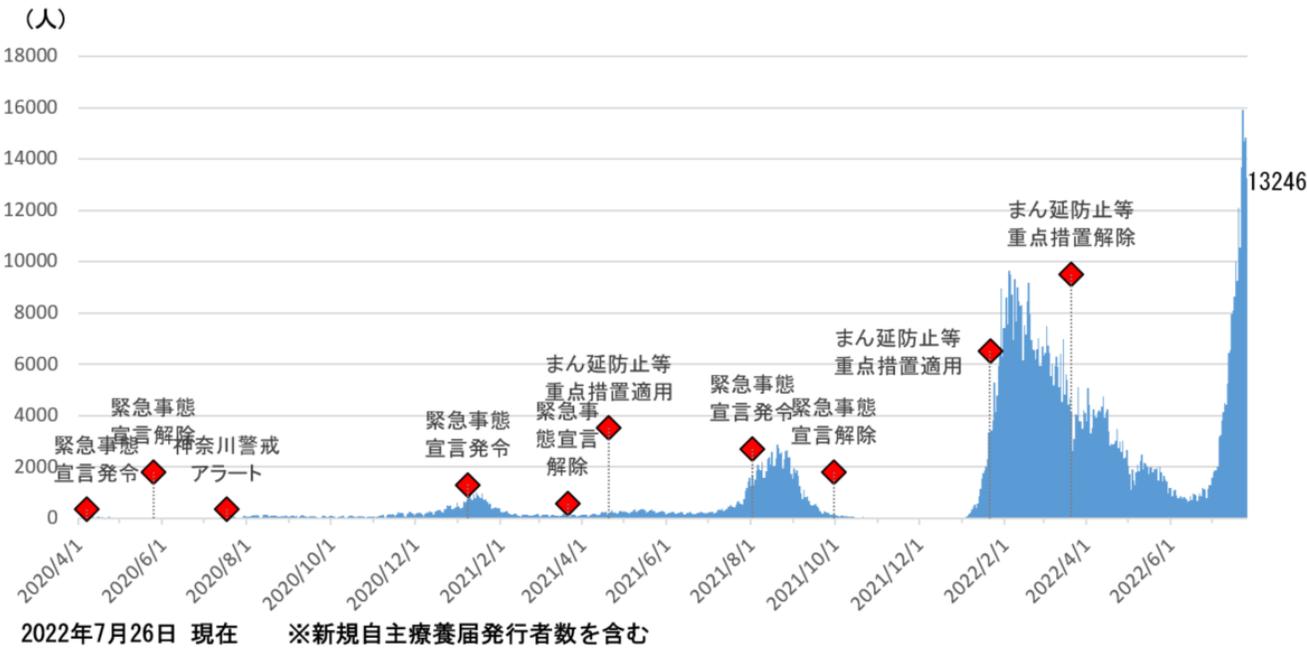
# 高齢者施設への医療支援に係る取組みについて

神奈川県 医療危機対策本部室

2022年7月27日 v0.44

# 新規感染者（新規自主療養届発行者数を含む）の推移（実数・日別）

令和4年7月26日現在

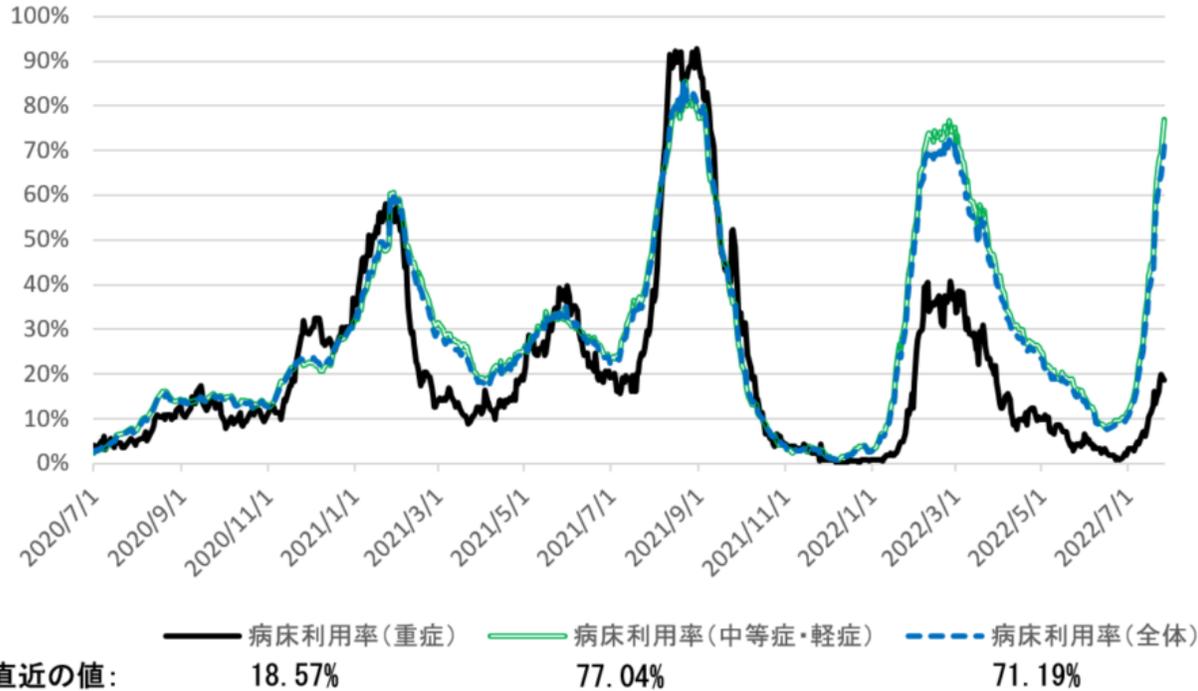


	日	月	火	水	木	金	土	
5月	29	30	31	6/1	2	3	4	週合計
	1410人	940人	1156人	1183人	860人	1059人	1117人	7725人
6月	5	6	7	8	9	10	11	週合計
	875人	772人	793人	851人	728人	811人	797人	5627人
	12	13	14	15	16	17	18	週合計
	752人	617人	678人	856人	689人	961人	919人	5472人
	19	20	21	22	23	24	25	週合計
	878人	659人	846人	949人	843人	1171人	1147人	6493人
7月	26	27	28	29	30	7/1	2	週合計
	1090人	787人	1138人	1297人	1286人	1584人	1782人	8964人
	3	4	5	6	7	8	9	週合計
	1868人	1871人	2011人	3159人	3234人	3792人	4116人	20051人
	10	11	12	13	14	15	16	週合計
	4475人	4403人	5260人	6431人	6544人	7948人	8091人	43152人
	17	18	19	20	21	22	23	週合計
	8618人	10013人	9260人	12098人	10528人	13684人	15911人	80112人
	24	25	26	27	28	29	30	
	14699人	14827人	13246人					

※新規感染者数（新規自主療養届発行者数を含む）

## ■ 病床利用率の推移

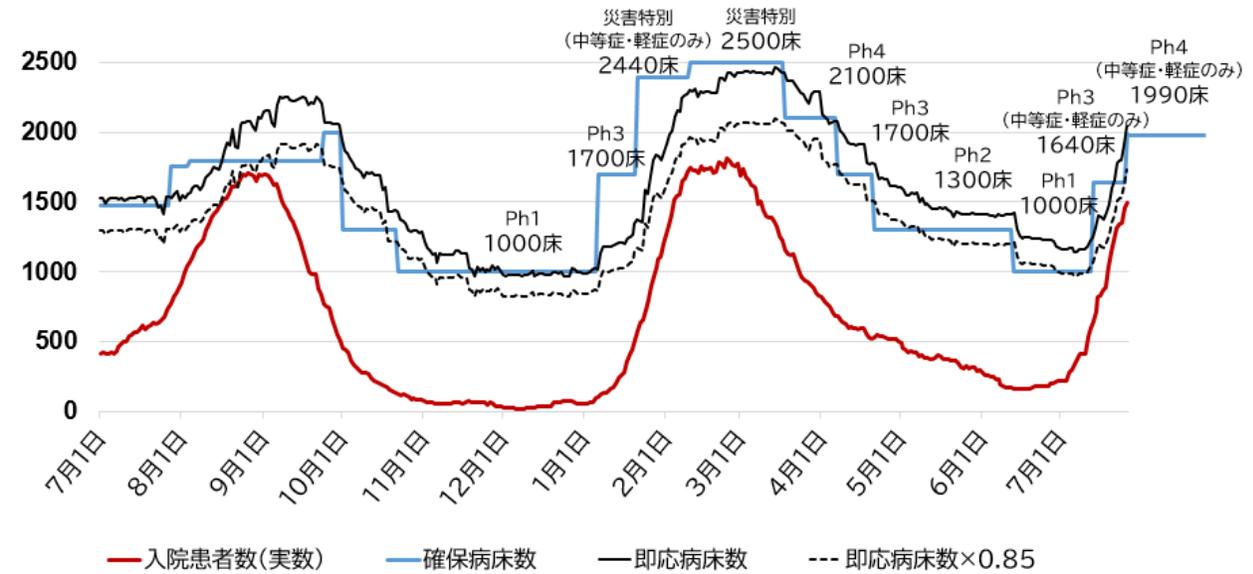
2022年7月26日 現在



※病床利用率は、最終的な確保病床に対する現在の入院者数で計算。

## ■ 病床と入院者数の推移

2022年7月26日 現在



(確保病床はその時点における病床確保フェーズの確保病床)

## 「病床確保フェーズ」の引き上げ

7/26 新型コロナ対策本部会議決定

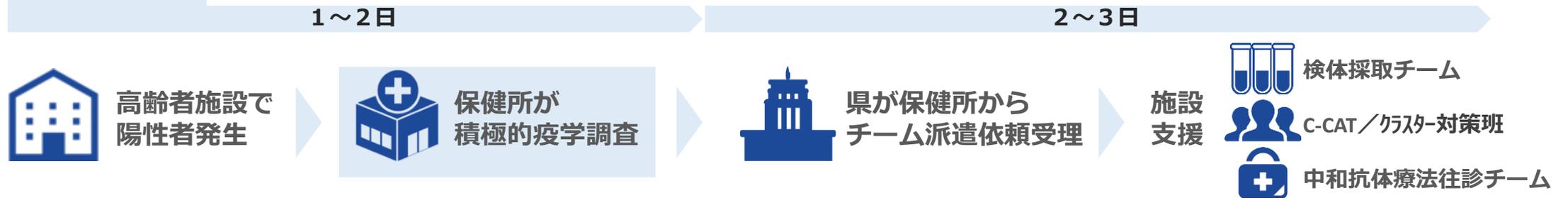
- **中等症・軽症**の入院患者に増加傾向が見られることを踏まえ、中等症・軽症の**病床確保フェーズを「3」から「4」に引き上げる**。（重症患者は増加傾向にないため、「1」のまま。）

確保病床	重症	100床	→	100床	（増減なし）
	中等症・軽症	1,540床	→	1,890床	（+350床）
	計	1,640床	→	1,990床	（+350床）

## 「レベル」は変動しない

- 感染症対策の基準となるレベルについては、オミクロン株の特性や国との調整状況等を総合的に勘案し、現時点では、緊急事態宣言等による行動制限を要しないと判断されることから、現行の**レベル「2」を継続する**。

## 従来への対応



## 今後の対応



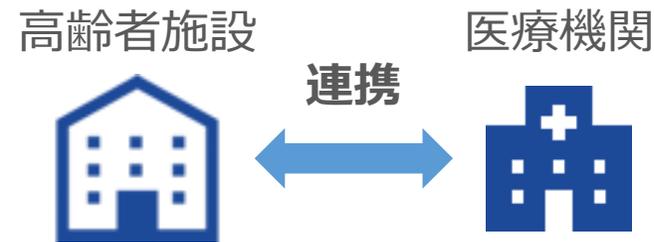
検体採取チームを充実・強化し、迅速に検査・治療へつなげる体制を構築

県内の入所系高齢者施設に、医療機関との連携状況を調査しました



**関係者が最新の医療連携情報を反映・共有できる、  
統合型データベースを整備**

## 高齢者施設と医療機関の連携

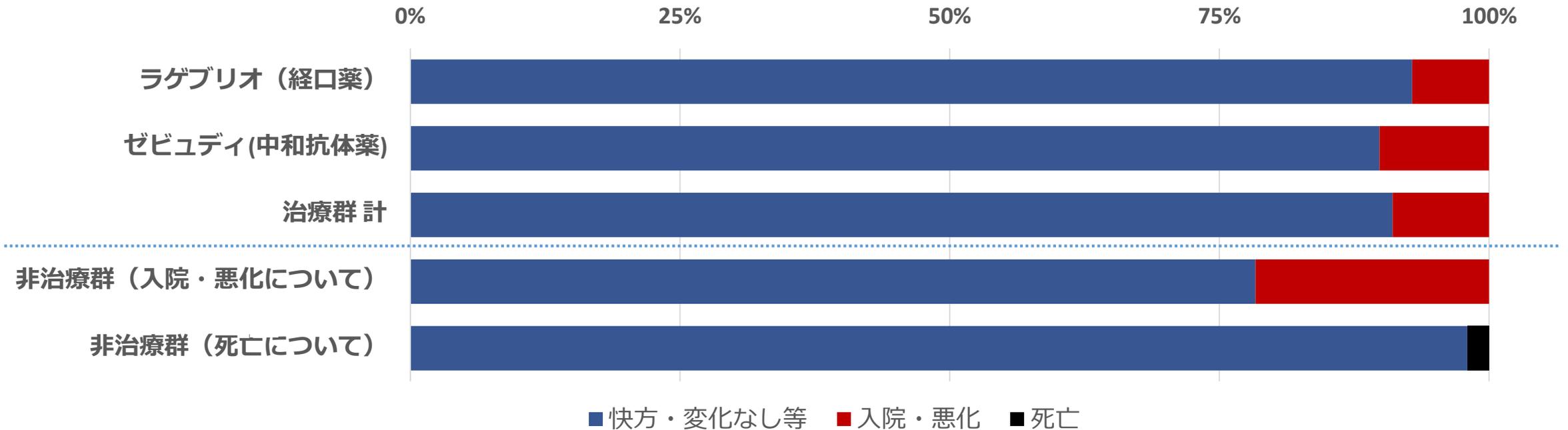


- 施設で陽性者発生時は、連携する医療機関が治療を担当
- 連携する医療機関がない場合は、**治療を担当する「高齢者施設等クラスター対策往診医療機関」**を神奈川県が事前にリスト化

**各施設におかれましては、協力医療機関と事前に新型コロナの治療について十分に相談し準備をお願いします。**

# 高齢者施設における治療群・非治療群の比較

(2022年4月～5月)



## ○ 比較に使用した施設データの内訳 (参考)

	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	有料老人ホーム等	計
<b>治療群</b>	17(34.0%)	10(20.0%)	23(46.0%)	50(100%)
<b>非治療群</b>	6(22.2%)	2(7.4%)	19(70.4%)	27(100%)

# 検体採取及び治療実施状況（集計中）

令和4年7月25日現在

施設種別	検体採取 施設数	検査状況		治療実施調整状況（※）		
		検査人数	陽性者数	施設数	中和抗体	経口薬
特別養護老人ホーム	21件	1,593人	102人	9件	56人	0人
介護老人保健施設	6件	574人	76人	1件	0人	10人
介護医療院	1件	136人	3人	1件	0人	19人
有料老人ホーム	13件	794人	96人	5件	29人	10人
養護老人ホーム	2件	64人	15人	1件	3人	8人
軽費老人ホーム	1件	47人	3人	0件	0人	0人
サービス付き高齢者向け住宅	2件	142人	37人	0件	0人	0人
認知症グループホーム	6件	132人	25人	3件	11人	4人
計	52件	3,482人	302人	20件	99人	51人

※ 施設の協力医療機関等による治療実施は除く

2022.6.8 厚労省ADBにて提言

## 「“効果的かつ負担の少ない”医療・介護場面における感染対策」

阿南、今村、岡部、太田、釜萯、高山、舘田、中島、前田、吉田、和田、脇田、尾身

### 感染対策の4要素



また、エアロゾル対策として適正な換気下では過剰な対応を回避できる

#### 感染者と接触する場合のPPE



**サージカルマスク**を業務中基本装着する  
(換気された環境下)

感染リスクが高い処置・ 換気不十分な病室内で陽性者に対応の場合	N95マスク
食事介助、体位交換、リハビリ等の場合	手袋/ガウン/フェイスシールド使用
身体密着なし + 体液・排泄物の飛沫を浴びる可能性が低い場合	エプロンやガウンは不要
身体密着なし + 体液・排泄物の飛沫を浴びる可能性が高い場合	袖なしエプロン、袖付きガウン

#### 入院管理のゾーニング



患者が少なければ**病棟全体のゾーニング(専用病棟)不要**  
**病室単位**での対応が可能になる  
(部屋内レッド、入室後のドア周囲イエロー、ドアの外グリーン)

#### 外来での対応

**インフルエンザ流行時に準じた対応**で可能

- ① 待合室や診察室の換気を良くする
- ② 疑わしい患者の診察時間を指定する
- ③ 疑わしい患者を優先診察する
- ④ 待合室の席を離す など



**同一内容で、2022年6月20日に厚生労働省から通知が発出された**

## 【策定】

令和4年7月8日

## 【指針の概要】

「神奈川県新型コロナウイルス感染対策指針 医療・福祉編」は、医療機関や高齢・障害者施設等における適切な感染対策について、これまでに蓄積されたエビデンスに基づき策定するもので、現場において参考としやすいよう、場面ごとに具体的な対策や考え方を整理したものの

## 【構成】

- ・ はじめに～今後目指すべき社会～
- ・ 基本的な考え方
- ・ 医療機関【外来】の感染対策
- ・ 医療機関【入院】の感染対策
- ・ 高齢・障害者施設等の感染対策
- ・ その他（集団発生（クラスター）の注意点）
- ・ 参考資料（エビデンス等）



# 神奈川県新型コロナウイルス感染対策指針 医療・福祉編 Vol.1 (抜粋)

神奈川県健康医療局  
神奈川県感染症医学会  
令和4年7月8日

これまで、私たちは、コロナと戦うために、感染者を極力抑えるために感染対策や検査を励行し、社会活動を抑制することもやむを得ないものとして生活してきた。

これからは、真にコロナとの共存、ウィズコロナの社会を目指し、社会活動を正常に戻していくことが重要である。

私たちは、ゼロコロナの実現（感染者がいない社会）は目標としない。

誰でも感染する可能性があり、感染者に責任を負わせない。

そうした社会を築くための第一歩として、医療や福祉の現場における適切な感染対策の考え方を、蓄積されたエビデンスに基づき作成した。

## 基本姿勢

感染者が社会にいない、  
いわゆるゼロコロナの実現は  
目標としない

医療・福祉施設において数名  
程度の感染者の発生はやむを  
得ず、大規模なクラスターへ  
の進展の抑止が重要

誰でも初発者(施設内での最初  
の陽性者)となる可能性があり、  
初発者に責任を負わせるよう  
な体制・言動は厳に慎む

感染しても無症状な場合が  
あり、最初に有症状者として  
発見された者が初発者とは  
限らない

## 検査

無症状の人への検査は、結果の  
信頼性が乏しい場合があり、  
感染の有無の判断は困難

検査は、症状がある人、陽性者と  
濃厚に接触し、感染している  
確率が高い人などが主な対象



## 感染対策

基本的な感染対策を遵守し、  
積極的なワクチン接種を検討

勤務時には不織布マスク以上の  
効果のあるマスクを適切に常時  
着用



N95マスクはフィット  
(隙間なく着用)しやすい製品を  
選択

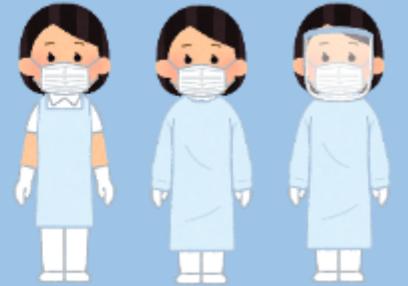
医療・福祉施設を利用する患者や利用者、スタッフは日常的にマスクを着用する。



患者等を直接ケアするスタッフは不織布製マスク以上のエアロゾル曝露防止効果のあるマスクを、患者等を直接ケアしないスタッフは不織布製マスクの着用を推奨する。



飛沫や唾液、排泄物などが曝露する場合は、手袋などの個人防護具を着用し、個人防護具の着脱の際には手指衛生する(標準予防策)。



手指衛生を徹底し、環境の清掃は1日1回程度で十分である。



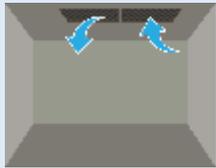
24時間稼働の機械換気や2方向の開窓、空気清浄機、高性能な空気ろ過装置等の設置など、換気やエアロゾル曝露防止に十分配慮する。



医療・福祉施設を利用する患者や利用者、スタッフは積極的なワクチン接種を検討する。



十分な換気のための取組み例。状況に合わせて活用する。



機械換気設備を  
常時稼働させている



2方向の窓を開けている



1つの窓しかないが、窓際に  
扇風機やサーキュレーター  
などを外向きに稼働



窓がない・開けられないが、  
空気清浄機や空気ろ過装置を稼働

## <留意事項>

- ・ 換気扇などの機械換気設備は日頃から点検・清掃を怠らないようにする!
- ・ CO<sub>2</sub>濃度計を活用し、800ppmを超えないように換気する!
- ・ 施設内の通路側のドアは閉め機械換気等を適切に行う!





## 設備&環境 編

### 日常的な対策

- 24時間稼働の機械換気や2方向の開窓、空気清浄機、高性能な空気ろ過装置等の設置を検討
- 換気が担保され、他の利用者にエアロゾルが曝露しにくい環境であればリハビリやレクリエーションは可能
- 感染の可能性が高い者専用の出入り口や動線の設置は必ずしも必要でない
- 環境消毒は原則不要で、1日1回程度の清掃を実施
- 受付の亚克力板や、入り口での検温は必ずしも必要でない



### 陽性者等\*発生時の対策

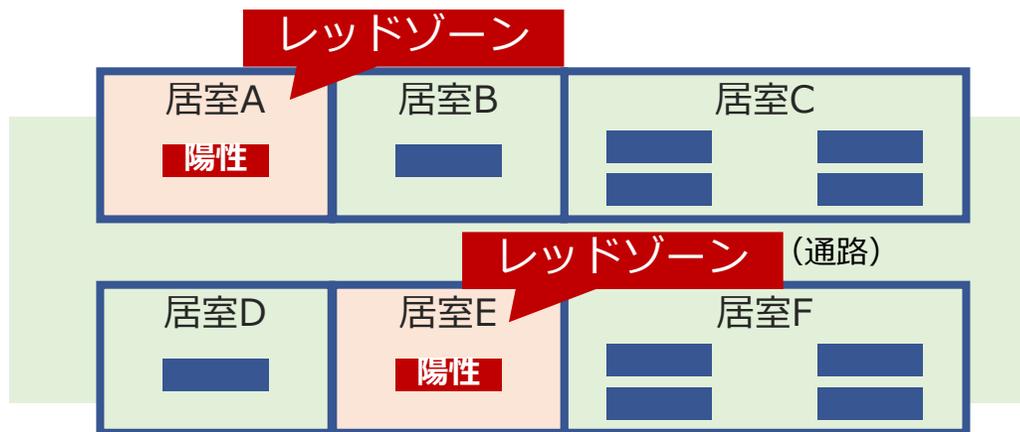
- 陽性者等が他の利用者と空間的な隔離ができる場所(レッドゾーン)を確保
- 陽性者等の居室のみがレッドゾーンで、廊下からはグリーンゾーン
- レッドゾーンの換気を徹底(セントラル空調の場合は特に十分な換気を確認)
- 感染性廃棄物容器はレッドゾーン、グリーンゾーンのどちらでも設置可能だが、利用者が触れないよう配慮

# (参考) 社会福祉施設におけるゾーニング



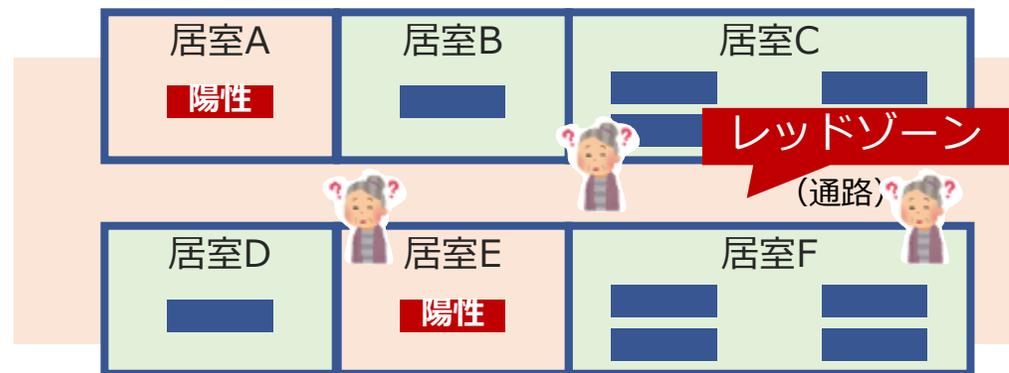
## 陽性等が居室内に留まることが出来る場合

陽性等が自室で療養できる場合は、陽性者の居室内のみをレッドゾーンとし、**フロア全体はグリーンゾーンとして運用**



## 左記以外の場合

陽性等が大声、認知症で意思疎通が困難、マスクが出来ない等、陽性等が自室外で感染を拡大させる恐れがある場合は、フロア全体をレッドゾーンとして運用し、陽性等と陽性等以外の入所者が接触しないよう管理





### 利用者・面会者への対応 編

#### 日常的な対策

- 不織布製マスク以上の効果があるマスクを着用
- デイサービス利用者と入所者は別々に管理
- 集団での食事は、陽性等でなければ可能
- 面会者の体調や陽性者との接触状況を確認
- 利用者と面会者はマスクを外さない、ともに飲食をしない等を遵守



#### 陽性等発生時の対策

- 個室管理とし、陽性等多数なら多床室で陽性等同士を管理してもよい
- 感染の可能性が高い者が多数の場合は多床室で感染の可能性が高い者同士の管理が可能(陽性等との同室は不可)
- 陽性等への家族面会は控える

# (参考) 集団での食事

可能な限り黙食とし、黙食ができない場合は対面での食事は控える

十分な換気が前提

アクリル板不要

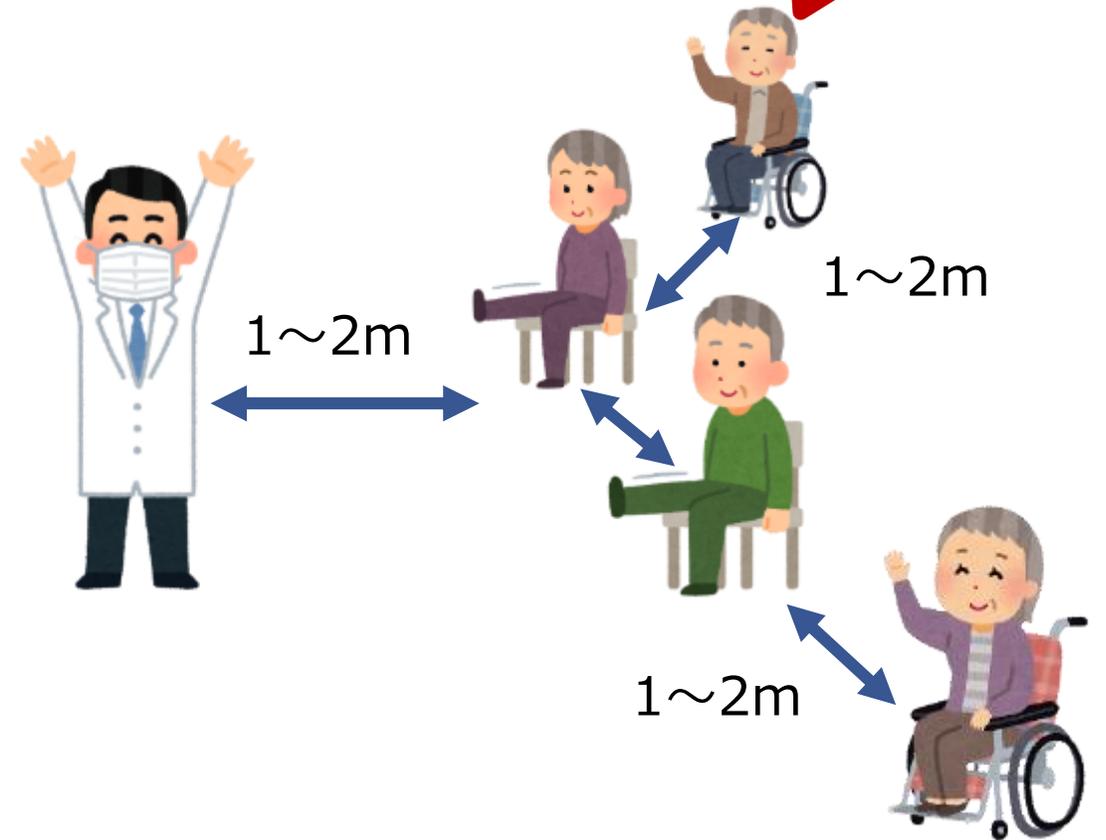


陽性者等は居室で摂取



# (参考) 集団でのレクリエーション・リハビリ等

利用者同士のエアロゾル曝露が抑制された状況での集合管理は可能



十分な換気  
が前提

多床室の一般利用者の面会は  
可能なら別室で



- 患者・面会者ともにマスク着用
- 個室であれば居室で

陽性者等への面会は原則禁止



## 搭乗者はすべてマスク着用



- 車内空調を外気に設定
- 運転手や搭乗員もマスク着用

## マスク着用できない場合は換気を拡充



- 窓を開け、換気を拡充
- 密集しないよう配慮



## スタッフ対応 編

### 日常的な対策

- 不織布製マスク以上の効果のあるマスクを着用
- 利用者がマスクを着用しない場面(入浴介助・食事介助等)では、眼保護具を着用
- ガウン、手袋の常時着用は不要
- 感染の可能性が高いスタッフ+が勤務する場合は、不織布製マスク以上の効果のあるマスクをより厳格に着用



### 陽性者等発生時の対策

- 陽性者等へのケア時はN95マスクを着用
- 陽性者等との接触が短時間(見守り、配膳下膳など)の場合は、不織布製マスクの着用でもよい
- 正しいN95マスクの着用方法を事前に確認しておく

## 一般入所者の対応時

**サージカルマスク**を着用



飛沫を浴びる可能性がある処置※

は、

**眼保護具**も着用

## 陽性者等の対応時

**N95マスク**を着用

(マスクが着用できない入所者対応時も同様)





次のケアを行う場合は、

**N95マスク**と**眼保護具**を装着



食事介助



吸引



口腔ケア



マスク未着 大声を出す

上記以外にも飛沫やエアロゾルを浴びるケアも同様